

令和3年度 第9回 若葉区区民対話会概要

「地域の支えあい活動団体等との意見交換」

～持続可能な若葉区を目指して～

1 区長挨拶

2 各地域より支えあい活動の現況の説明

- ・現在はコロナ禍で支えあい活動自体が制限されている。また自治会のイベント（運動会や夏祭りなど）も実施できず、地域住民の交流が滞っている。
- ・自治会において会長など役員の担い手がおらず、1年ずつ持ち回りで務めても単年では新しいことはできず、前年の踏襲が精いっぱい状況である。

以上のような点が、どの地域でも共通して挙げられた。

3 意見交換

<支えあい活動を進めるにあたっての課題と対応について>

- ・活動者の新陳代謝がない。昔と違って定年年齢が延長し、都合よく活動できる人が少ない。いつまで今と同じような活動ができるか不安。人材確保・育成は、どの地域でも共通の課題だと思う。
- ・超高齢化社会で、活動を実施する人的資源がないのが一番の課題。会長のなり手がおらず、自治会崩壊の危機にある。従来と同じ形を維持するのはもはや難しい。今の時代に合わせた良いやり方を考えないと立ち行かない。
- ・若い人は共働きが多く、ボランティア活動まで手が回らない。誰が活動を担うのか頭を悩ませている。
- ・自治会役員のOBの持つ豊富な経験や知識を、地域のボランティア活動に活かすのも、一つの解決手段として考えられると思う。
⇒(区長)アンケートを実施するなど、活動に協力してくれる人的資源の現状を把握することが大事だと思う。

- ・地域をつくるための母体はやはり自治会だと思う。行政は積極的に地域へ出てきて自治会と一緒に地域活動をやってほしい。それが、支え合い活動が進むかどうかのポイントだと思う。行政には組織的に自治会を盛り上げる体制をとってほしい

- ・地域振興課に、地域のあらゆる問題を一緒になって解決していく人材を3人くらい配置してはどうか。若葉区は特別なことを考えて区政を進めていくというメッセージを出して行ってほしい。6区で同じことをやってもダメだと思う。

⇒(区長)区として地域の現状を把握することは重要。一緒にまちづくりをしたいという姿勢は持っている。それをどういう形で実践していくか検討していきたい。

- ・社協の地区部会も、地域によって活発度に差があると、話を聞いていて感じた。
- ・見守りは、「向こう三軒両隣」が基本。樹木の剪定など、広域的に行っていくものとは分ける必要がある。活動内容によって守備範囲を決め、はっきりさせていくことでスムーズな支えあい活動につながる。

⇒(区長)どこが主体になって動いていくか、それぞれの地域の実情に合わせ考えていくということで良いと思う。社協の地区部会のところもあれば、自治会が主体のところもある。

- ・自治会で運動会や夏祭りをやるには、普段からの交流がないと難しい。まず、顔の見える関係を構築することが大事ではないか。

- ・現代はファミレス(ファミリーがレス)時代とも言われており、他人同士が住んでいるからこそ、皆が協力しないと生きていけない。そこで基本になるのは自治会だと思う。自治会の基盤を強くしていけないといけない。

⇒(区長)何でも自治会だけでやろうとすると、行き詰まってしまうことも考えられるので、場合によっては、自治会以外の活動主体を取り入れることも必要であると思う。

- ・自治会費の負担があるため自治会を退会してしまう人もいるが、アパートに共益費があるのと同様に、自治会費には地域社会で生きていくための共益費という面があると思う。

- ・自治会に入らずとも、ゴミステーションや防犯街灯など、自治会が管理しているものの恩恵を享受しているということを、もっとわかっていたきたい。

- ・誰が誰を助け、支えあうのか、課題をまとめられる力が自治会にはない。そういったことを整理する力を区に貸してほしい。支えあい活動といっても、実際に何をすればいいのか漠然化してしまうことがある。

- ・近所との付き合い方が昔と違う。世代間のギャップがある。自分も、働いているときは地域より仕事を優先しており、地域のことは誰かがやってくれているのだろうと思っていた。若い人の、地元への帰属意識が薄く感じる。まずは地域コミュニティの希薄化をどうするかが課題だと思う。

<その他>

- ・市と大学が協定を結んでいるのであれば、自治会に何かあった場合、ぜひ大学生をボランティアに起用させていただきたい。以前、バザーの手伝いに来てもらったこともある。
- ・地域で行う活動がうまくいっている、そういう事例を市の広報活動などで紹介するような機会をつくったらどうか。市政だよりも支えあい活動従事の募集を出しても良いかも知れない。
- ・(区長) 10年後、20年後を見据え、今後若葉区をどうしていくか考えなくてはいけない。地域を良くしていくために、みんなで考えていく。今日のような話し合いの場を設け、情報交換し、一緒にまちづくりを進めていきたい。

以上